

2021. 7. 14 しんぶん赤旗

よみがえれ長良川 岐阜でパネル展

岐阜市のハートフルスクエアG 2階壁面で「よみがえれ長良川2021パネル展」が開かれています。18日まで。河口堰（ぜき）の開門調査実現をめざす「よみがえれ長良川実行委員会」主催。

長良川河口堰のゲート閉鎖から26年、名古屋で生物多様性COP10開催から11年、長良川の現実をしっかりと見つめ、次世代にどのような長良川を手渡すのか、市民と



河口堰の閉鎖で環境破壊がいかにひどいか、パネルを示して説明する実行委員会の堀さん10日、岐阜市

もに考えようと約40点のパネルが展示されています。

実行委員会の堀敏弘さんは、河口堰の閉鎖で環境破壊がいかにひどいかをよく見てほしいと指摘。「長良川の鮎（あゆ）」は世界農業遺産に認定されたが漁獲量は河口堰運用前の3分の1しかないことなど説明。「毎年5月、長良川下流地域の環境観察会をしている。河口堰の閉鎖によってもたらず被害の大きさを多くの人に知ってほしい」と語りました。

河口堰は、長良川と海を繋ぎ、川の流れを止め、水質を悪くする。アユの産卵を妨げる。アユの産卵を妨げる。アユの産卵を妨げる。



長良川河口堰と流域パネル展 岐阜市

生態系や環境変化 詳しく

長良川河口堰（三重県桑名市）の運用開始から26年が経過した長良川の現状や魅力を紹介するパネル展「よみがえれ長良川2021」が、岐阜市橋本町のハートフルスクエアGで開かれている。18日まで。河口堰の開門調査実施を目標し、県内外30の市民団体などでつくる「よみがえれ長良川実行委員会」が主催。河口堰が及ぼした流域環境の変化や、長良川が持つ本来の魅力を深く知ってもらう。昨年からの開催。会場には約40点のパネルを並べ、河口堰が海と川を行き来する鮎の妨げとなっているとする内容や、ヨシ原が運用開始後に約9割消

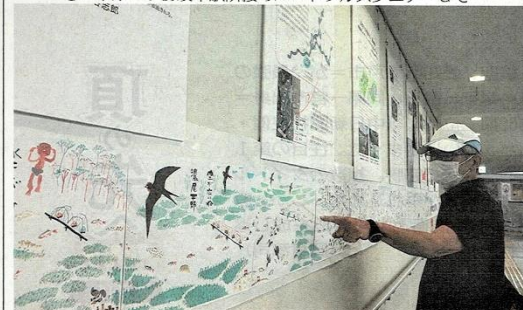
2021. 7. 11 岐阜新聞

滅し、生態系に変化が起きているとする調査結果などを紹介。現在も続くウナギ漁で使用される道具「釜」

なども展示し、伝統や歴史についても伝えている。武藤仁事務局長（右）は「今の長良川が抱える問題

を知るとともに、歴史と文化といった魅力も感じしてほしい」と話していた。（日比野佑治）

長良川の自然を描いたイラストと、周辺環境の現状を伝えるパネル＝JR岐阜駅隣接のハートフルスクエアGで



長良川の現状 知ろう

ハートフルスクエアGでパネル40点 河口堰閉門26年で環境伝える

長良川を取り巻く自然環境の現状を伝えるパネル展が、岐阜市のJR岐阜駅に隣接するハートフルスクエアGで開かれている。十八日まで。長良川河口堰が開門されて六日、二十六年。長良川の環境を調査する「長良川市民学習会」によると、河口堰の建設後はシロアリやカニが減り、アユやサツキマスの遡上にも影響が出ている。こうした現状を約四十点のパネルで伝えている。川沿いの豊かな自然を描いたイラストも見られる。パネル展は、河口堰ができてからの川の様子を知ってもらおうと、開門を求める市民団体「よみがえれ長良川実行委員会」が昨年に

続いて開いた。長良川市民学習会は実行委を構成する三十の市民団体の一つで、事務局長の武藤仁さんは「長良川の良さに関心を持

ち、自然保護につなげてもらえたら」と話す。午前九時～午後九時。最終日は午後六時まで。（鈴木沙弥）

2021. 7. 9 中日新聞

長良川の歴史や文化、現状伝えるパネル展「よみがえれ長良川」 岐阜市で7月18日まで開催

2021/7/14 20:55 (JST)

©株式会社岐阜放送

ぎふちゃん DIGITAL



ぎふちゃんが発信するメディアサイト「ぎふちゃん DIGITAL」 [ぎふちゃん公式サイト](#)



長良川の持つ歴史や文化、さらに河口堰(ぜき)運用開始後の現状について紹介するパネル展が岐阜市で開かれています。

長良川の現状を伝えるパネル展「よみがえれ長良川」を開いているのは、河口堰の開門調査などを求める市民団体などで行う実行委員会です。



約40枚のパネルで、長良川河口堰が26年前に運用が始まって以降にアユの行き来に与えた影響や、大半の葦(よし)原がなくなったことが生態系に与えた調査結果など、流域の環境の変化を伝えます。

また、今もウナギ漁で使っている道具なども展示し、長良川が持つ本来の魅力を紹介しています。

パネル展は7月18日まで開かれています。